

《平成 28 年度 千葉市発達障害者支援センター運営事業経過報告》

前年度に引き続き、相談業務、講師派遣、サロン、子育てアシスト(年中児集団行動観察)、ペアレント・トレーニング、普及啓発を行っている。

1. 相談業務

(1) 相談件数(H28.12.31 現在)

- 実支援人数 662 人
- 延支援件数 2,074 件

統計方法が今年度より変更になっている。

[変更点]

- ・延べ支援件数は本人、家族の相談のみをカウント
- ・関係機関との連絡等は機関コンサルテーションとしてカウント
- ・旧機関支援、子育てアシスト、巡回相談は全て講師派遣としてカウント

(2) 相談支援・発達支援状況

相談支援・発達支援は日常生活(コミュニケーション、行動上のこと、学校や所属機関でのこと等)の様々な相談に応じている。また必要に応じて所属機関(保育所、幼稚園、学校、福祉施設、医療機関等)と連携・協働し、本人や家族が安心して過ごせる環境を作るための支援も行っている。

18 歳以上が全体の 51.7%であるが、ここ数年の傾向としては成人期以前と以降の相談の割合が概ね半々になってきている。家族・本人からの相談が中心であり、家族の相談は情報提供や生活上の困難さに対する具体的なアドバイスが中心であるが、本人の相談はカウンセリング的な要素の強いものが多い。相談期間が 5 年以上と長期にわたるケースも多く、次のステップ(福祉サービスの利用等)へ進めた方も増えているが、一方で次のステップに進めず、支援センターがつながっている唯一の機関となっている方も多いため、長期にわたる丁寧な支援が必要である。

所属機関に発達障害であることを伝えず、特別な配慮を受けずに生活している方も多い。既存の障害者支援にはなじまないことも多いため、様々な社会資源を活用しながら、本人・家族のニーズに即した支援を行っている。

18 歳未満の相談では、学齢期以降の相談が多い。18 歳未満の相談に占める割合は、小学生が 38%、中学生が 22%、高校生年代が 18%で、いずれの年代からも同程度相談が寄せられている。

幼児期の相談では、医療機関での診断後に紹介を受けて来所に至るケースが増加している。診断直後で家族自身が混乱状態であったり、本人の状況について正しく理解・説明できる段階にないことが多く、障害についての基本的な知識や対応方法等を伝えていくこと、就学までの大まかな見通しを共に考えて行くことが家族支援の中心となっている。

学齢期以降においては、家庭や学校における学習や対人関係への支援に関する相談から、不登校や学校不適応、養育困難等の相談まで幅が広い。小学校低学年のうちは学習や身辺自立等、発達障害の特性から生じる問題に関する相談が多いが、高学年から中学生以降になると家族関係の悪化や問題行動、他の精神疾患を併せ持つケース等、問題の深刻化・複雑化や二次障害に関する相談が増加する。早期から適切な支援を行うことの重要性が伺われる。

(3) 相談支援・就労支援状況

就労準備(千葉障害者職業センターの職業相談・評価や発達障害者支援カリキュラム等の活用、他の就労支援機関の利用等)や就職活動(ハローワークや民間求人サイト等)、就労後の定着など、一人ひとりのニーズに即した支援を行っている。今年度、12 月末までの就職者数は 4 人(内、障害者雇用枠 4 人)主な就業先は、一般事務(事務補助含)、軽作業等である。

2. 講師派遣

(1) 外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)

幼稚園・保育園や各種学校、福祉施設、企業等を訪問し、機関からの各種の相談に応じている。相談の内容としては、障害のある、または障害の疑われる者への対応や指導方法の助言が中心である。行動観察を行う他、関係者より日頃の様子等について聞き取りを行い、対応方法や支援方針について協議を行っている。対象者に関するだけでなく、周囲の環境調整等についても必要に応じて助言を行い、各機関の支援機能の向上を目指している。

巡回相談事業の実施に伴い、保護者より相談への同意が得られないケースや、対象年齢に満たないケースについて、保育所(園)・幼稚園等から対応方法への助言を求める依頼が増加している。

(2) 子育てアシスト(年中児集団行動観察)

※外部から講師依頼を受けた研修(実技中心)の一環として実施

乳幼児健診では育ちにくさに気付かれにくい子どもや関わりの難しい子どもに対して、適切な関与を共に考えていけるように地域での支援機能の向上を目指すことを目的としている。子どもの行動を観察し、気になる行動の原因を探索、支援を考えることによって園職員の行動理解と支援技術を促進している。

今年度は幼稚園・保育園・認定こども園に加えて保育所も参加対象とし、実施回数を全 10 回とするなど、事業の拡大を図った。また千葉市発達障害等に関する巡回相談事業および子育てアシスト事業説明会を実施し、各施設への周知を行った。

【実施園】

- ・幼稚園 5 区(緑、花見川、緑、稲毛、美浜)5 園
- ・保育園 3 区(美浜、緑、中央)3 園
- ・保育所 2 区(中央、美浜)2 園

【内 容】

- ・保護者への事前説明:文書による趣旨説明。
- ・保護者への事前調査:ご家庭で困っていること、気になることの確認。
- ・集団場面での行動観察:幼稚園での集団活動場面の様子を観察。
- ・ミニ講座:保護者を対象に趣旨説明と子育てミニ講座を実施。
- ・職員と意見交換:気になる子への対応方法などを協議。
- ・保護者への報告:各児への所見を支援センターで作成。園から報告。
- ・保護者、各園職員へアンケート

【協力関係機関】

- ・養護教育センター ・健康支援課 ・各区保健福祉センター
- ・千葉大学教育学部 ・千葉市桜木園 ・千葉市療育センターすぎのこルーム
- ・千葉市大宮学園 ・相談支援事業所ぱれっと

【実施結果】 ※結果報告の終了していない園を除く

	人数	障害の診断あり※1	相談機関等を勧める※2	対応方法アドバイス※3
美 浜 区A 園	28	0	6	15
緑 区B 園	96	3	7	57
中 央 区C 園	18	2	4	17
美 浜 区D 園	25	1	5	18
花見川区 E 園	33	3	2	25
緑 区F 園	76	1	3	12
緑 区G 園	30	1	6	17
稲 毛 区H 園	25	2	2	18
中 央 区I 園	21	0	2	18

※1「障害の診断あり」は、疑いも含む。

※2「相談機関等を勧める」は、相談継続中の場合は除く。

現時点での勧めではなく、経過観察後の様子によって勧める場合も含む。

※3「対応方法アドバイス」は、子育て全般に関しても行っている。

【考察】

今年度は巡回相談事業と併せて子育てアシスト事業説明会を実施、参加対象施設や実施数の拡大を行った。事業内容の周知だけでなく、発達障害者支援センターという相談先がある事を関係機関に伝えていく機会にもなり、連携強化につながった。

前年度に引き続き、実施園と子育てアシスト以外の形でも連携を取る機会は増加傾向にある。園が主体となって児童や保護者に関わり、発達障害者支援センターが巡回相談等でサポートする形を取ったケースも見受けられる。間接支援という形で地域の支援者を支えて行くためには、事業等を通じて実際に顔が見え、相談できるつながりを形成していくことが重要であることが伺われた。

(3)外部から講師派遣依頼を受けた研修(講義中心)

- ・平成 28 年 6 月 16 日 14:00～17:30 参加人数 138 人
千葉県こども未来局 こども未来部 幼保運営課
「インクルージブ保育における保育実践について」
- ・平成 28 年 6 月 22 日 14:30～16:30 参加人数 54 人
公益社団法人千葉県幼稚園協会特別支援教育研修会
事例研究会～インシデントプロセス法による～
- ・平成 28 年 7 月 28 日 9:30～12:00 参加人数 138 人
特別支援教育研修会～支援に繋げる専門機関を知る～
公益社団法人千葉県幼稚園協会特別支援教育研修会
- ・平成 28 年 8 月 4 日 10:00～12:00 参加人数 13 人
地域子育て支援センター 子育てひろば・うたせ
- ・平成 28 年 8 月 17 日 13:30～16:00 参加人数 60 人
千葉県こころの健康センター
「発達障害について『基本から具体的なことまで知りたい』って思っている方、一緒に学びましょう！」
- ・平成 28 年 8 月 19 日 13:30～15:30 参加人数 80 人
千葉市民生委員児童委員協議会 障害者児福祉研究部会
「発達障害とは」
- ・平成 28 年 8 月 26 日 10:25～11:45 参加人数 28 人
千葉県警察学校
「発達障害者への理解」]
- ・平成 28 年 10 月 19 日 14:30～16:30 参加人数 60 人
公益社団法人千葉県幼稚園協会特別支援教育研修会
事例研究会～インシデントプロセス法による～

- ・平成 28 年 11 月 21 日 13:30～17:30 参加人数 80 人
千葉市ひきこもりサポーター養成研修
「ひきこもりの本人や家族への、具体的な支援方法について」
- ・平成 28 年 11 月 22 日 9:00～17:00 参加人数 11 人
千葉市川戸保育所
保育内容現場研修
「ほめて育てる」保護者に対する指導、助言
- ・平成 29 年 1 月 18 日 15:30～17:30 参加人数 50 人
公益社団法人千葉市幼稚園協会特別支援教育研修会
事例研究会～インシデントプロセス法による～
- ・平成 29 年 2 月 2 日 13:00～15:00 参加人数 10 人
独立行政法人高齢・障害・休職者雇用支援機構障害者職業センター
発達障害者のワークサポート・システム・プログラムにおける就労セミナー
「発達障害について」
- ・平成 29 年 2 月 21 日 10:25～11:45 参加人数 36 人
千葉県警察学校
「発達障害者への理解」
- ・平成 29 年 3 月 2 日 13:00～15:00(実施予定)
発達障害児親の会 あんだんて 千葉支部
「ペアレントトレーニング初級」

3. 普及啓発・研修

講演会や研修会により、発達障害に関する理解の普及啓発を図るものである。一般市民や関係者を対象とした啓発イベント、研修会を開催し、発達障害への理解浸透を図っている。

①世界自閉症啓発デー

- ・平成 27 年 4 月 2 日(土)11:00～17:00 参加人数 500 人
第 8 回世界自閉症啓発デーin ちば
場所:きぼーる 1 階アトリウム

②主催研修会

- ・平成 28 年 8 月 15 日(土)10:00～12:00 参加人数 256 人
第 1 回発達障害講座
発達障害児者へのライフステージを通じた支援
—豊かな社会生活のために今日からできること—
講師:東京学芸大学教育実践研究支援センター教育臨床研究部門 橋本 創一教授

・平成 28 年 2 月 18 日(土)10:00～15:00 参加人数 246 人

第 2 回発達障害講座

発達障害と二次障害～からだの不調・こころの不調の理解と支援～

講師:ラビット発達臨床研究所 平岩 幹男医師

発達障害と防災～“その時”のために“今から”できること～

講師:社会福祉士・ボランティアコーディネーター 宮崎 賢哉氏

③施設見学研修受け入れ

・平成 28 年 7 月 1 日 10:00～11:30 参加人数 10 人

千葉市稲毛保健福祉センター 子ども家庭課

稲毛区家庭児童相談室主任児童委員連絡会の研修活動

・平成 28 年 7 月 11 日 10:30～11:30 参加人数 2 人

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合支援センター 研究部門

「発達障害者に係る地域の就労支援ネットワークの現状把握に関する調査研究」に係るヒアリング調査

・平成 28 年 7 月 21 日 9:30～10:30 参加人数 2 人

植草学園短期大学 研究ブランディング事業の調査について

・平成 28 年 10 月 5 日 9:30～12:00 参加人数 6 人

千葉大学教育学部委託研究生

平成 28 年度千葉県長期研修生の研修の一環

・平成 28 年 11 月 29 日 13:30～15:00 参加人数 25 人

千葉市若葉保健福祉センター 子ども家庭課

若葉区家庭児童相談室主任児童委員連絡会の研修活動

・平成 28 年 12 月 6 日 11:00～12:00 4 人

植草学園短期大学「早期相談・連携支援」という科目の一環における研修活動

・平成 29 年 1 月 17 日 10:00～12:00 参加人数 30 人

千葉市中央保健福祉センター 子ども家庭課

中央区主任児童委員・家庭児童相談室主任児童委員連絡会の研修活動

4. サロン「しえるろっく」

対象は、発達障害の診断を受けていて、診断名を告知されている 18 歳以上の方である。フリートークやゲームなどの活動を通じて自分を表現する力、他者を理解する力の向上を目的としている。本年度はフリートーク中心に活動している。参加人数は毎回 5 名程度。全 8 回を予定しており、1 月末で 6 回終了している。

5.ペアレント・トレーニング

発達障害児はその特性から叱責されることが多く、自信や意欲を失ってしまうことがある。ペアレント・トレーニングは発達障害のある子どもの行動を理解し、行動療法に基づく効果的な対処法を体験的に学び、よりよい親子関係づくりと子どもの適応行動の増加を目的としている。

【参加者】

・ADHD と診断された子どもの保護者 8 名（幼稚園児 3 名、小学生 5 名）

【内 容】

セッション 1	オリエンテーション 子どもの行動を 3 種類に分けてみよう
セッション 2	肯定的な注目を与えよう ほめ方のコツ スペシャルタイム
セッション 3	好ましくない行動を減らすー無視とほめるの組合せー
セッション 4	子どもの協力を増やす方法①ー効果的な指示の出し方①ー
セッション 5	子どもの協力を増やす方法②ー効果的な指示の出し方②ー
セッション 6	子どもの協力を増やす方法③ーよりよい行動のためのチャートー
セッション 7	制限を設けるー警告とペナルティーの与え方ー
セッション 8	これまでのふりかえり

【考 察】

今年度も父親の参加があり、グループが活性化され意見交換も活発であった。各回のセッション終了後に受講者同士で情報交換をしていることも多く、同じような悩みを持つ親同士の交流の場にもなっていた。終了後の感想では「子どもの良いところを見るようになった」「他の人の話を聞き、自分だけではないんだと安心した」など肯定的な意見が多かった。

また、今年度はリーダー養成研修も併せて行った。児童発達支援事業者を対象に募集をし、4 事業所が参加した。短時間のリーダー養成研修を受講しただけでは、実施につなげることが難しいという意見も聞かれるため、全 8 回のセッションの場面も見てもらい、その後に内容の説明を行う方法を取った。

終了後の感想では「事業所での実施は難しいと思う」という意見が多く、ペアレント・トレーニングを広く普及していくには課題が残る。